

# GREEN LETTER

## グリーンレター

**Vol.298**

2022/2/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

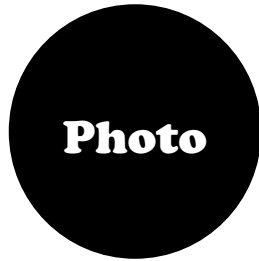
GREEN COLUMN

01. フィルムの中の謎の飛行機

02. 自動撮影カメラ



今月の一枚



## 「前が見えない」

表紙写真・文／八重柏誠

新年明けて早々、美幌町は記録的な大雪に見舞われました。断続的に降り続いた雪も、ようやくあがり、久しぶりの晴天が訪れました。みどりの村のモニュメント、ヒグマ像の様子を見に行くと、顔が雪に覆われていました。これでは、せっかくの晴天を楽しむことができませんね。

## Event. 今月のイベント

ロビー上映会「みどりの村でわくわく植物観察会」 ～3月25日（金）

企画展「冬季作品展」 2月5日（土）～3月6日（日）

ロビー展「ひな祭りとひな人形」 2月12日（土）～3月3日（木）

体験会「アイヌ文化の植物利用」 2月12日（土）

プチ工房「マーブリングでアート作品をつくろう」 2月18日（金）, 19日（土）

## Information. 参加者募集

体験会「アイヌ文化の植物利用」

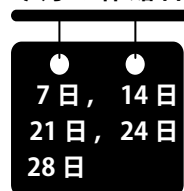
●2/12（土）10:00-12:00 ●美幌博物館 1 階 講座室 ●参加費 300 円, 手元が見える眼鏡, マスク ●内田 祐一（文化庁調査官・国立アイヌ民族博物館） ●美幌博物館へ電話申込み（-2/11）。高校生以上 12 名で締切。

プチ工房「マーブリングでアート作品をつくろう」

●2/18（金）, 19（土）① 10:00 開始, ② 11:00 開始, ③ 14:00 開始, ④ 15:00 開始, 所要時間 30 分, 作品ができ次第終了 ●美幌博物館 1 階 講座室 ●参加費 300 円, マスク ●久保田結衣（美幌博物館） ●美幌博物館へ電話申込み（-2/17）。各回定員 12 名で締切。小学 3 年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発熱がある、あるいは体調が優れない方のご参加はお控えください。各イベントは、内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により、一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上、ご参加ください。

### 今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

## フィルムの中の 謎の飛行機

写真・文／八重柏誠



**過** 去のコラムでも何度か紹介してきました戦前・戦中の美幌町を撮影した 9.5mm フィルム。整理作業を進めていくと様々なものが撮影されていることがわかってきました。その中に、一瞬ですが美幌町に縁のある飛行機が飛んでいる様子が写っていました。映像をよく見てみると、翼にエンジンが付いた双発機が 2 機並んで旋回しています。撮影時間は 10 秒足らずでしたので、慌てて撮影を始めたものの、機体は雲の中に消えて見えなくなってしまったのでしょう。そのシルエットから、九六式陸上攻撃機と思われます。この飛行機は、美幌海軍航空隊が使用していたことでも知られています。

美幌叢書第五号美幌海軍航空隊によると、航空隊は昭和 15 年に木更津で開隊、その後各地を転戦し、美幌町にやってきたのは昭和 17 年 5 月 30 日、

それ以降は訓練飛行等を行っていましたが同年 8 月には木更津基地に移動しているとのこと。美幌基地を航空隊が使っていたのは 2 ヶ月程度しかありません。もし映像の飛行機が美幌海軍航空隊のものであれば、その 2 ヶ月間に撮影されたものなのでしょう。もしかすると美幌町上空を訓練飛行している貴重な資料と言えるものかもしれません。ただし、この映像については、いつどこで撮影されたものなのか記録されていないため、あくまでも私の想像の域を出ていません。

9.5mm フィルムの映像は、現在も少しずつ分析を進めています。その一部は昨秋行ったロビー上映会で公開し、多くの皆様にご覧いただくことができました。まだ公開していない部分についても、編集してロビー上映会第 2 弾として公開したいと考えています。



## 02 GREEN COLUMN グリーンコラム

# 自動撮影 カメラ

写真・文／町田善康



ひと昔前、「24 時間働けますか？」というキャッチフレーズで一世を風びした栄養ドリンクがあります。私は、今でもこのドリンクを愛飲しており、24 時間とまではいかないまでも、力がみなぎりバリバリ働けました。しかし最近、栄養ドリンクだけでは、間に合わないほど、仕事に追われています。もっと、ゆっくり森や川で過ごす時間を取りたいところですが、やることをまとめて、調査地点を回ることもしばしばです。

そこで、自分が出られないならば、別の人に働いてもらおうと考え、自動撮影カメラ(トレイルカメラ、センサーカメラなどとも呼ばれるカメラ)を導入することにしました。このカメラはとても優秀で、森や川の至ることに仕掛ければ、24 時間休みなく、文句ひとつ言わずに、動物たちの様子を観察してくれます。さすがに 1 年間は木

に着けたままにしておけないので、雪が降る前に回収して、冬の間は撮影画像を確認しています。

すると、良く訪れる調査地にヒグマが頻繁に出現していたり、市街地近くの林の中に大きな角を持ったエゾシカの群がいたり、様々な発見がありました。なかでも、春から秋にかけて、タンチョウの夫婦が暮らす湿地を確認することができました。もしかすると、今後、この夫婦が美幌町で繁殖するかもしれません。これまで町内ではタンチョウの繁殖が確認されていないので、引き続き調査を続けていきたいと考えています。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・八重柏誠

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 ( 72 ) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / [museum@town.bihoro.hokkaido.jp](mailto:museum@town.bihoro.hokkaido.jp)

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

## 学芸員のつぶやき



最近、忙しく自分が外に出られない分、自動撮影カメラに働いてもらおうと考えましたが、今度はカメラの設置と回収。それに加えて撮影画像のチェックに時間がとられ、泥沼状態になっています。撮れる画像にたくさんの発見があることが、唯一の救いです。(町田)